



インフルエンザと新型インフルエンザに対する備え

感染制御部

インフルエンザのシーズンがやってきました。今シーズンは、すでに北海道や関東地方の一部で報告数の増加がみられ、11月中にも全国的流行が始まる可能性が高く、記録的な早さとなるみこみです。

また、新型インフルエンザの対策も常に準備が必要です。新型インフルエンザは、現在アジアやエジプトで散発する鳥インフルエンザが変異してヒト-ヒト感染を高率に起こすようになり、人類がこれまでに経験したことのない新しいインフルエンザとなって流行すると想定されています。

新型インフルエンザが流行した場合の死亡率は、1900年代初頭に流行したスペイン風邪の2%程度になる可能性が想定されています。2%というのは、現在流行しているインフルエンザの死亡率(0.1%以下)の20倍以上とすることになります。

国民の4分の1が罹患し、1日最大入院患者は全国で10万人と考えられています。この数はわが国の全病床数の約15分の1を占めることになり、流行の期間は8週間程度と想定されています。

従って、新型インフルエンザの流行が起こった場合、現在流行中のインフルエンザと同様に、当院へ新型インフルエンザの患者様が受診あるいは入院されることが想定されます。それに対する準備をしておくことが必要です。

以下に新型インフルエンザに対する対策を述べてみます。また、これはインフルエンザ診療とも共通しますので、シーズンを迎えて、インフルエンザに備えつつ、新型インフルエンザに対しても心の準備をしておきましょう。

Q：新型インフルエンザに対するワクチンはあるのですか？

A：現在のインフルエンザワクチンは新型インフルエンザには無効です。新型インフルエンザに対しては、鳥インフルエンザに対するワクチンが現在作成されています。これをプレパンデミックワクチンと呼び、流行が始まったら、いち早く医療従事者などには接種されますが、その有効性は不明です。新型インフルエンザが流行したらすぐにワクチンが作られますが、実用化までには半年以上かかるといわれています。

Q：医療従事者の感染予防は可能ですか？

A：予防には、3つの方法があります。ひとつはワクチンによる予防ですが、確実ではありません。

2番目は抗ウイルス薬の内服による予防で、タミフルやリレンザの診療期間中の連日投与が有効と考えられています。3つ目が、飛沫感染、接触感染予防の実施です。

Q：感染経路とその予防方法は？

A：感染経路は、主に飛沫、接触感染です。エアロゾルを発生する特殊な場合は空気感染にも注意が必要と考えられます。そこで、基本的な防護用具は、ゴーグル、サージカルマスク、ガウン(エプロン)、手袋です。気管内挿管を行う場合などは空気感染対策としてのN95マスクの着用が必要です。

Q：その他一般的な注意事項はありませんか？

A：新型インフルエンザに限らず、インフルエンザのシーズンには、ワクチン接種は当然ながら、手洗い、うがい、マスクが感染予防に効果があると考えられています。マスクは、ヒトからインフルエンザをうつされないための防御と同時にヒトにインフルエンザをうつさないマナーのひとつとして、シーズン中は着用が推奨されます。またお年寄りや基礎疾患のある方は、インフルエンザに罹患すると、肺炎などの合併症の頻度が高くなりますので、人ごみの中への外出を避けることも有効です。

咳エチケットを守りましょう



◇咳やくしゃみをするときは、ティッシュで口と鼻を覆いましょう

◇ティッシュは近くのゴミ箱に捨てその後、よく手洗いをしましょう

手洗いやうがいも大切です。

